

6. 綾部市君尾山光明寺の総合調査

濱野 覚生

歴史学科では、2018 年度より地域貢献型特別研究 (ACTR) として、綾部市君尾山光明寺の総合調査を実施している (代表 横内裕人)。以下、今年度の活動状況を簡単に報告する。

1. 調査日程・参加者

日程

- 1 回目 2022 年 7 月 16 日 (土) ~ 17 日 (日)
- 2 回目 2022 年 8 月 29 日 (月) ~ 30 日 (火)
- 3 回目 2022 年 9 月 27 日 (火) ~ 28 日 (水)
- 4 回目 2022 年 11 月 9 日 (水) ~ 10 日 (木)
- 5 回目 2022 年 12 月 7 日 (水)

参加者

京都府立大学：岸泰子、横内裕人 (教員)、滝澤和湖 (M2)、正瑞千幸、濱野覚生 (以上 M1)、川西優帆、東拓宏、藤村昂輝、松岡茉陽琉 (以上 4 回生)、河村如乃、添田春香、大串香織、林田実佳 (以上 3 回生)

同志社大学：井上一稔 (教員)、高口柚、工藤裕司 (以上 D1)、吉村拓実 (4 回生)、相松秋斗 (3 回生)

福知山公立大学：小山元孝 (教員)、竹谷拓真、三宅那魅 (以上 2 回生)

京都府：桑原正明、吉野健一 (以上京都府教育庁)、稲穂将士 (京都府立丹後郷土資料館)

綾部市：大関美沙 (綾部市資料館)、熊内久志 (奥上林自治会)、児玉裕美 (ネイチャーガイド)、白波瀬聡美 (綾部市観光協会・事務局次長)

2. 調査内容

1 回目の調査では本堂脇壇に安置されている位牌の実測・撮影・記録を行なった。調査の結果、光明寺の再建・修理に助成した寄進者の位牌が大半を占めることがわかった。位牌の多くは上林をはじめとした地域住民によってのものである。中には同種の様式でまとまったグループが確認できるが、刻銘された年月日から、江戸時代天保年間の本堂再建や明治後期の二王門国宝指定と修理事業、昭和 25 年 (1950) の二王門修理など、光明寺再建事業に助成した人々のために光明寺が用意した逆修牌であると考えられる。

2 回目には同志社大井上教授、福知山公立大小山教授および同志社大、福知山公立大の学生、出前授業の一環として参加した上林中学校の生徒とともに、本堂外壁の芳名標の実測・撮

影・記録や、聖徳太子像・理源大師像をはじめとした本堂・太子堂・行者堂の仏像の調査・撮影を行なった。芳名標の調査過程では、住職榎林誠雄師や地元の方々から再建事業当時の状況を教示いただいた。また上林中学校の生徒が芳名標調査に参加し、祖父母世代の方々が本堂の修理維持につとめていた歴史を学んだ。

仏像調査では、太子堂の聖徳太子像・理源大師像に像内銘が確認された。前者は延宝6年(1678)8月、後者は同年6月に造られたことが判明し、いずれも

「大宮方大仏師高栄大内藏作」の作者銘が記されていた。また、厨子入り地藏菩薩像からも天保10年(1839)の墨書銘が見ついている。弘法大師像は銘文が見当たらなかったが室町時代に遡る作品であることが判明した。

3回目には君尾山ガイド養成トレッキングへの協力を行なった(後述)。

4回目、5回目の調査では井上教授およびゼミ生とともに太子堂の位牌、芳名標および仏具の調査、二十八部衆像、風神・雷神像など本堂の仏像調査、石造物の実測・撮影・記録を行なった(石造物調査は4回目)。位牌の調査では、江戸時代の宝珠院5代鎮慶や3代領主藤懸永俊らの位牌があることを確認した。仏具の調査では、元禄4年(1691)銘の釣灯籠2点のほか、江戸時代の六器、近代の香炉の調査を行なった。芳名標は、「君尾山山上施設整備」の勸化に応じた寄付者の名前を記載したものであることが明らかとなった。

仏像調査では、各尊像名が仏像の台座裏に、寄進した人物名が基台正面にそれぞれ記されていることが確認され、二十八部衆のうち神母天立像の基台裏面に記されていた「文久三年亥年 本願不動院実道」の朱漆銘から、二十八部衆・風神・雷神像が文久3年(1863)の造立であることが判明した。二十八部衆と作風を同じくする本堂安置の毘沙門天・吉祥天・善膩師童子像も、文久頃の作であると判定された。

3. 君尾山ガイド養成トレッキングへの協力

2022年9月28日(水)、「君尾山の歴史・文化・自然」の語り部の養成を目的とした「君尾山ガイド養成トレッキング」を奥上林地区自治会連合会と共催した。綾部市観光協会白波瀬聡美氏の協力をいただいた。

本学からは横内・岸とともに学生6名が参加し、今年度までの調査の成果を踏まえ光明寺の歴史や建造物の文化財としての意義を解説した。また、地元のネイチャーガイド児玉裕美氏による解説を聴き、君尾山の豊かな自然遺産について学んだ。

参加者は綾部市内外から約30名が集まり、語り部となる人々に5年にわたるACTR調査の成果を伝えることができた。また、横内・岸および学生が地元ラジオからのインタビューに応じる模様が10月8日に放送されたことで、トレッキングの概要は広く周知された。



写真1 光明寺本堂での位牌調査



写真2 トレッキングでの二王門解説

編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
